日本代表 史上初の快挙！

開成校新聞

ISEF 最高賞受賞

発行
開成中等新聞局
発行責任者　阿部
制作者
阿部・小笠原・佐野
本家・松原

号外

2026年5月15日(現地時間)にアメリカアリゾナ州フェニックスで「Regeneron ISEF(国際科学技術フェア)2026」の優秀賞受賞式が開催された。「物理学・天文学部門　優秀賞1等」と、史上初となる日本代表が最高賞である「ジョージ・ヤンコポーロス革新賞」を獲得した。約1400の研究の中から、獲得したのは本校の6年次生の栗林輝(くりばやしひかる)さんである。

▲表彰台にて全身で喜びを表現する栗林さん

栗林さんの研究テーマは「マルコフ連鎖モンテカルロ法を用いたリンク機構に関する研究」である。幼少期、北海道の自然の美しさに魅了されたことをきっかけに「秩序とカオス」について研究を始めた。

この賞を受けて栗林さんは「ISEFが約68回という歴史を持ち、これまでの先輩方の苦労の上で、最後の一端を担えたのがありがたいし、とてもうれしい」と喜びを顕わにした。

そして賞を獲得した以上に、これまで多くの人に出会えたこと、支えられたこと、アドバイスを貰えたことが糧になり、今の自分がいるという。

また開成という環境についてもこう語る。1年生から6年次生まで探究する機会の多さにより、粘り強く探究し続ける力が身につき、今回の研究に役立った。

▲校長先生らと座談する栗林さん

さらに、IBのカリキュラムを受けていたからこそ、大会を通して海外のIB校の学生と対話を楽しむことができた。そしてSSHだったからこそ、研究に最適な環境が整えられていたという。

1年生の試行錯誤でデザインを研究し、4年次生のPPでは、量子物理学について1年間探究をしていた。また今に至るまで、統計物理学、力学などの幅広い分野を学び続けた。今回の研究ポスターが高く評価されたことから、開成の全ての学びや経験が積み重なり、集大成として研究に活かすことができたと感じている。

また、同じ大会に参加した友人の宮嶋櫂(みやじまかい)さんとは、IBセンターでお昼に交流をするなどして、互いの研究を切磋琢磨しながら高め合っていたという。

好きな言葉は「自分ごと化」で、今回のプログラムを通して、国は違えど、同じ熱量で研究をしている人が世界中にいることを体感したことから、世界のつながりを自分ごと化し、他国の人と一緒に分かち合う喜びを知ったとはにかんだ。

また、国によって強みとする研究分野があることを知り、非常に興味深かったと語る。だからこそ、色んな国の人々がいる海外で研究したいと力を込める。

最後に「自身が先輩から影響を受けてここまで来れたように、後輩に少しでも多くのインスパイアを与えられたらいいなと思う」と後輩に期待を寄せた。

（阿部・本家）

▲新聞局から▲　そこの君も先輩の背中を見て研究に挑戦だ！